

ふじかわ

町のメモ

昭和58年12月1日現在	
人口	16,986人
増減	+5人
男	8,362人
女	8,624人
世帯数	4,353世帯
面積	31.09km ²

富士川町 総務課

12月号 昭和58年12月20日発行

No. 269



町の今年の目標
「笑顔であいさつ明るい町に」

ドライバーのみなさん

空きカンやゴミを

窓からすてないでね!

ふよの会(大島愛子代表 会員40人)が、12月6日(火)、町内のゴミの収集状況の視察や、心無いドライバーが、馬坂や木島交差点などに無造作にすてた空きカンなどのゴミの収集を半日かかりで行いました。

現在「環境美化」という言葉がいろいろの方面で言われていますが、みなさん一人ひとりの協力がなければなかなか達成できません。自分の出したゴミは責任をもって処理することを心がけていきましょう。



お手がらの5人 (写真右から今泉・太田・天野 佐藤・花田君)

中学生五人 初期消火活動で大活躍

11月3日(釜舟山町内で発生した火災は、かけつけたみなさんの協力でもなく鎮火しました。この火災で、同町内の中学生5人―花田健君、佐藤幸弘君、太田守和君、天野貫広君(以上一中3年)、今泉充春君(一中2年)が、9月4日行われた地域防災訓練での可搬式ポンプ操作の練習成果を発揮して、初期消火活動で大活躍しました。

この活躍に対して、11月21日(月)庵原地区消防組合の久保田消防長から、5人に感謝状がおくられました。

望月寛治さん
皇太子殿下ご夫妻から
けきれいの言葉を
日本善行会主催の「長寿善行者のつどい」が、皇太子殿下ご夫妻の出席のもと、9月19日東宮御所で行われ、望月寛治さんが、永年に亘る交通安全の功績により招待されました。招待を受けて望月さんは「殿下ご夫妻から、激励の言葉をいただきましたが、緊張して私は言葉ができませんでした。殿下が誕生した時、近衛兵として警備にあたり



円内・矢印
望月寛治さん(70)旭町

たこともあり、感無量でした。体さえよければこれからも交通安全や事故防止に努めていきます」と話していました。



斉藤久男氏
通産大臣表彰を
(東町 1)

11月1日、東京で開催された「中小企業基本法施行20周年式典」の席上、斉藤久男氏(町商工会長・県商工会連合会長)が、通産大臣表彰を受賞しました。同氏は、昭和38年町商工会長に就任して以来、県貯蓄共済事

業運営委員長などの役職を歴任、今年県商工会連合会長に就任しました。この間、他県の模範となる中小企業の振興や小規模事業者の育成などに全力を注いできました。受彰にあたり同氏は「此度の受彰は、いろいろと苦勞されている商工会役員や、私がいなくても立派に仕事にはげんでいる社員(㈱丸十鉄工所)の協力の賜物で、個人の榮譽ではないと思います。今後みなさんの協力のもとで、団結と努力を重ね、

第二小学校が
保健体育優良校に
日本学校連合会・後援文部省の昭和58年度保健体育優良校に、町立第二小学校が選ばれ、11月7日、神奈川県横浜市で開



喜びの清堅司校長(左)と
盛永禎之体育主任(右)

かれた第22回全国学校体育研究大会で、同会から表彰を受けました。同校は、昭和54年度から3年間、文部省体力づくり指導研究指定校として、児童の体力づくりに取り組んできましたが、指定終了後も、学校ぐるみで体力づくりや保健体育向上を目指し、幅広い活動を展開してきました。受彰にあたり、清校長は「先輩の先生方が、良い研究成果を残してくれました。この結果、子どもたちは、たくましく、また積極的に大きく変わって来ました。今後研究成果を更に定着させていくために、今迄以上の努力をしていきます」と話していました。

住みよい庵原郡をめざして

＝庵原地域県民会議＝



全体会議

「住みよい町づくりをめざして」地域ぐるみの運動としてをテーマに、10月25日(火)、蒲原町文化センターで、庵原三町の住民を対象として県民会議が開かれました。同会議は、県の広聴事業の一環として、昭和54年度から行われ、本年度で5回目を迎え、地域の共通する課題を私たちみんなで話し合い、「私たちができることは、私たちの手で」という考え方のもとに、ここに

住む私たちが、本当に望む方向は何かを見出すとともに、生の声を今後の施策に反映しようとするものです。当日は、私たちの意見発表者42人(富士川町13人)と県・町の関係者が出席、午前中は三分科会、午後は全体会議と熱心に討議を重ねた後、広聴集会が行われました。そこで今月は、三分科会が出された主な意見について、取り上げてみました。

◆第一分科会

○学校と家庭の連携を強める必要がある。
○教師の資質向上を図るよう努めていただきたい。
○高校生父兄の地区連絡会の結成を促進していただきたい。

◆第二分科会

○環境美化を考える
○各町の環境美化運動状況の紹介。
○組織(会)の活動費は、県や町の援助をあてにしないで、自前で捻出する努力が必要である。
○ごみ箱を取り去ることも一つの方法。
○海岸、河川の美化に奉仕する地域住民に公的に認められた「わん章」を付けてもらったかどうか。

◆第三分科会

○自主防災の強化
○自主防リーダーは、民生委員のように委嘱とし、任期5年位の長期にしたらどうか。
○防災リーダーの質的向上を図る必要がある。
○婦人防災リーダーの育成が必要である。
○訓練は、地域の特性に応じて、実施すべきである。
○自主防の訓練中の負傷に保険等による救済の制度を検討していただきたい。
○家庭内でも常日頃、発災の場合、警報の場合のことについて話し合っておくべきである。

◆第四分科会

○河川敷(富士川)でのモトクロスの音がやかましく、地域住民は、大変迷惑している。

富士川町からの出席者 (敬称略)

- ◆第一分科会
渡辺 幸一 (堺町)
深沢 祐子 (大北町)
丸山 好子 (木島)
常盤 孝子 (上町)

◆第二分科会

- 佐野 節子 (南町一)
大島 愛子 (俣下町)
太田 熊吉 (舟山町)
吉田 貞作 (大北町)
三浦 松寿 (東町二)

◆第三分科会

- 滝 利雄 (舟山町)
望月恒次郎 (四十九町)
花田 章 (旭町)
望月 卓爾 (富士松野)



分科会

12月号のテーマ

広報ニュース又カッション わが家の重大ニュース

提言者 天野恵美子さん (42) 舟山町

新しいものが増えたこと

坂下 山本その子さん(42) たて続けに、自転車を買った。去年の秋、古いのは十年も前アルバイトをして買った思い出深いものだったが、重くてもう動かなくなり、色もはげ捨てるのはかわいそうな気がしたが、新しいのを買ってしまおうと、簡単にあきらめられた。人間というものは随分勝手なものらしい。

一年を振り返って

東町一 遠藤弘子さん(32) 昨年秋、身体の具合が悪かった私は、今年少しずつ良くなり健康になりました。

私にとつて重大なこととは、思いがけないような何かが起こることではないでしょうか。主人や母も言いがたない不安にさらされました。入院してからの毎日というものは、もう非難なもので、今こうしてのんびりしている間にも、いつ死んでしまうかもしれない子どもをお腹の中に抱えているという不安。そんな日々が過ぎ8月8日無事男児を出産しました。初めてわが子と対面した時、不安は一挙に消え失せました。生まれてきた子に、健康にたく育ってほしいという願いをこめて健太という名前をつけました。今のところ、風邪ひとつひかず名前の通り、すくすくと育っています。

ある休日

小池 宇佐美幸子さん(41) 鮎釣りや鰯釣りにこつていた主人が、8月に入つて突然、「黒鯛をやる」と言い出しました。黒鯛に関する本を買い、まず知識を習得し、次は竿、針と準備OK。休みのたびにクラーンぱい水をつめて出かけていきました。隣に座ったおじいさんは、半日で6匹もあげたと言うのに、何回行つてもクラーンの中は空っぽでした。

な子どもではないでしょう」と言われ、私だけでなく、主人や母も言いがたない不安にさらされました。入院してからの毎日というものは、もう非難なもので、今こうしてのんびりしている間にも、いつ死んでしまうかもしれない子どもをお腹の中に抱えているという不安。そんな日々が過ぎ8月8日無事男児を出産しました。初めてわが子と対面した時、不安は一挙に消え失せました。生まれてきた子に、健康にたく育ってほしいという願いをこめて健太という名前をつけました。今のところ、風邪ひとつひかず名前の通り、すくすくと育っています。

わが家のトップニュース

小山 芦川みさをさん(38)

早いもので結婚して13年、修善寺からは遠く離れていた富士山を目の前に、眼下に日本三大急流の一つ富士川、駿河湾を展望できる小山地区に来て、色々苦しい想いもありましたが、この素晴らしい環境が心をなごませてくれます。

小6と小1の男子に恵まれました。2人も小学校へ上がるまで病気や怪我などが多く、学

月、祖々母の米寿のお祝いをささやかにいたしました。7人の子ども夫婦、2人の孫夫婦、曾孫3人に囲まれ、一日中にこやかにしていた祖々母。そのつややかな横顔をみながら、88年という長い年月丈夫でやってきたフアイトを私も見習いたいとつくづく思いました。

信州ドライブ旅行

八幡町 小林哲子さん(42)

今年の九月、親子三人で信州ドライブ旅行に行きました。宿も、コースも決めない、行きあたりばつたりの旅だったので、いろいろなハプニングの連続でした。「近道」と矢印のある道を行き迷ってしまい、でこぼこ道を気持ちが悪くなるくらい走らされたり、地図には温泉街と出ているのに壊れそうな建物が一軒あるだけだったり、牧場の看板が出ていたので行つて見たら、牛が一頭いるだけだったり...

家族が一人増えました

大栗窪 福田美代子さん(42)

わが家の重大ニュースといえば、8月に家族が一人増えたことです。妊娠8ヶ月頃から体を悪くして入院するハメになりました。入院の際、医師から「今は、赤ちゃんは無事生きていますけど、お腹の中でいつ死んでしまうかもしれません。もし、無事に生まれたとしても抵抗力のない、体の弱い、決して丈夫

交通事故防止 飲酒運転事故多発 11月中、町内では、人身事故5件(3)、物損事故6件(1)発生しています。(一)内は昨年

1月のテーマ 年男・年女 ニとしのほうふ 井出哲郎くん 5年(富士見町) ぼくは、ねずみ年生まれの11歳です。ぼくたちのねずみ年がきます。ねずみは、作物を食いあらしたりして、きらわれものだけど、よく見ると目がかわいし、12支の話にもあるように、

ママさん記者が取材中



「富士川断酒会」

師走に入って二日目の12月2日(金)、私たち広報モニターは老人福祉センター応接室において「庵原地区富士川断酒会」会長の千頭和勇さんをお招きして、会の生い立ちや運営等のお話を伺いました。

現在同会は、40〜50歳代の男性27人で構成され、「酒を断つ」ために戦っています。

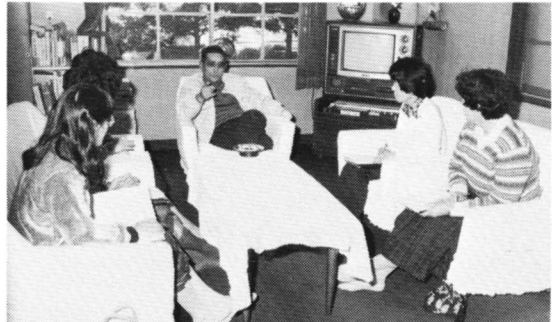
会結成の動機は、会長さん自身が酒害のため13回の入・退院をくり返し、昭和45年2月12日、奥様から「離婚」か「酒をやめるか」の二者択一を迫られた結果、清水断酒会に入会(当時、庵原三町になかったため)し、

毎週木曜日、清水まで通ったそうです。そこで知り合った郡内の酒害者が16人になったため、昭和49年4月「庵原地区富士川断酒会」を結成し、今日に至っています。

現在までに延べ200人余りの人が入会しましたが、多くの人は脱落してしまい、立ち直った人は2割程度しかならないそうです。酒害から脱け出するためには、家族など周囲の助けもあります。が、やはり本人が、「俺は中毒なんだ」という自覚をもつことが一番大切で、「もう飲めないんだ」という強い意志を持つことも大切なことだそうです。

酒害が、離婚や別居になるケースもあるためか、妻帯者の方が立ち直る確率が高いようです。

現在、毎週土曜日午後7時から2時間ぐらいい、会長さんのお宅で夫婦同伴の茶和会、毎月第3火曜日に福祉センターで定例会、その他新年会や年間4回程のレクリエーションを家族同伴で行い、お互いの絆を強めています。今月25日には福祉センターで、ジュースで乾杯、しるこで終わる忘年



千頭和会長さんにインタビューする広報モニター

会を計画しています。酒害のこわさは家庭の崩壊につながり、一度かかるとなおりにくく、3年5年とやめても盃一杯で元に戻ってしまい、入院して危篤になっても誰もお見舞に來ないそうです。家族の方が、患者の実態を一度見て見るのが一番よいそうです。

これから年末年始と、お酒を飲む機会も多くなると思いますが、お酒の本質を良くわきまえて飲み、飲んでも酒に飲まれないような心がけ、会長さんが「暇」になるよう願ってやみません。

広報モニター 曾我久子

随想

冬のおいと郷愁

冬枯しとともにまた今年も冬がやってきた。冬という季節は寒さが主役である。寒さが主役であれば、水や白い息、ビードロのような手は、さしずめ脇役とでもいおうか……。

軒下で無造作にころがっている漬け物桶に薄氷がはり、ビードロのようにかじかんだ小さな手に白い息を吹きかけ、くしながら背を丸めて登校した子どもの頃に想いをダブらせる。冬はまさに脇役の季節である。

冬のおいは、西の山の頂がうっすらと雪化粧をする頃から顕著になる。お百姓さんが仕事じまいの藁くずを焼く煙が、山腹に一定の高さでへばりつく夕刻、白つが淡青色の羽をしっかりととふって、あたりをゆつたりと飛びまわる。干され疲れた寒漬け用の大根がすっきりしなびて柿の木にぶら下がっている。そして、一面にどんよりした空が誰にもなく年の暮れを告げながら、どこからか北風を連れてきた。

かるうじて破れることをまぬがれた足袋の指先が、冷たさでしびれてくるのをがまんしながら、つま先を縮めて歩く。そんな時、道の端の石ころを蹴とばすものなら、飛び上がらんばかりに痛みが膝までひびく。何しろ砂利道で石ころという石は全て氷ついているのだから……。

やがて大晦日も近くなり、隣近所のきねの音がかすかに床下の地面をゆさぶるころになると、きまって平地に雪が降りる。そんな夜は風も無く無気味な程静かである。案の定、翌朝はあたり一面銀世界となり、わずかにのぞく田舎家のたる木の黒と雪の白とが見事なコントラストを描く。

こうした郷愁をよび起こす冬のおいは、最近のくらしの中ではわずかしかない。そういえば冬につきものの、ヒビ、アカギレ、しもやけといった言葉もついぞ聞かれなくなった。このことは、日常の快適な生活の証明でもあり、感謝すべき事だと思いが、くらしの中にナマの生活実感が欠けてきた点にいささかの不満とさびしさを覚える。

そうした面からも私たち現代人は、冬という自然の厳しさから逃避するのではなく、つとめて享受すべきであろうと思う。

(宮川)

ふるさと探訪

石仏巡礼(四)

馬坂峠の如意輪観音

木島と南松野の村境が馬坂峠である。現在の県道から更に30m程高い処を旧甲州街道が通っていた。村境から100m程北に風の宮と隣り合せて石仏群が祀られている。大メ縄を張る風祭り

で有名な風神宮と共に村の入口にあつて悪霊悪疫の侵入を封じ村の安穩を願う塞の神信仰が習合してこうした石仏、石塔の造立となったものと思われる。2m余りの題目塔三基と馬頭観音と一体の如意輪観音が祀られている。総高135cmの舟形浮彫像で右手を軽く頬に副え、右膝を立てた半跏思惟の姿で温顔慈悲の相をなす観音である。正徳二壬

辰稔、二十四人の人々が願主となつて造立されたもので、六道に迷う衆生を救う願を成就させる法を如意輪といひ江戸中期以後は女人の信仰の対象となり、安産豊穰への祈りに発展していった。この観音は女人の墓石としても盛んに造立されている

特にこの如意輪信仰は南松野に於ては永精寺の如意輪観音の造立となり、北松野の大本寺の御本尊も如意輪観音であり、しりつみ観音の奇祭でも有名であった。

(芦川守正)



星の子



まちの指定文化財(一)

新豊院山門

今月号から、まちの指定文化財(23件・手続中1件含む)を、今年10月5日(第4回)に指定された8件から、順をおつて紹介していきます。

建造物 新豊院 山門

昭和58年10月5日指定 指定番号 15号

光福山新豊院(篠田弥天住職 相生町)は、時代を遡ると光明山心包院といつて、真言宗のお寺でしたが、今から48年前の天文4年に、心岳寺(藤枝市)の学叟昌文和尚によつて、曹洞宗に改宗され、304年前の延宝7年(1679)には、同院の六世海印道空和尚により、寺号・山号が改称され、現在に至っています。

同院の山門は、この改称以前

前の建築であるといわれ、当町に現存する山門としては一番古く、町にとつて大変貴重な文化財の一つです。

次に山門の概要について話してみます。

この山門は、薬医門(元來は城門の一種)の型で、本柱が門の中心線上から前方にずれ、本柱と控柱を結ぶ梁の中門の上に束をのせ、その上に切妻屋根をのせています。本柱の直径は37cm、控柱は24×24cm、間口は2.03m、奥行は2.15mの大きさをもつしっかりとした門です。

ちなみに、同門にかかつている額には、光福山・東臯越林多と書かれています。なお、東臯は中国からの帰化僧です。



山門正面



山門側面

戸籍の窓

S 58・11・1〜11・30届出
(敬称略)

宮町	齋藤実穂	功	長女
小池	加藤正人	正幸	長男
本通一	齋藤晴日	光信	二女
幸町	白石 愛	敏夫	長女
東町一	野中大介	和美	長男
〃	若月あづさ	正生	長女
東町二	吉野晴彦	孝志	長男
南町二	坂本好章	博	二男
八幡町	井上直也	徹	長男
〃	望月隆正	修	長男

かなしみ

〃	松本君保	操	二男
〃	小林美智	幹男	長女
清水町	宇佐美恵子	正弘	長女
大北町	宇佐美 葵	宗保	長女

お母さんの

知恵袋

食生活と食品添加物

添加物336品目に更に11品目が追加されました。食品添加物は食品そのものでなく、体に利益のあるものばかりではない。私た

ちは業者に不良品を作らせないためにも次の注意が必要である。消費者の心がけは、

- 1 表示をよくみて買う
- 2 極端な格安安品には注意する(原材料は何か、古くないか、さず物か)
- 3 外観にまどわされない。(不自然な色、ツヤ、テリ)
- 4 衛生的で良心的な店を選ぶ
- 5 冷蔵庫の過信や買いだめをしない
- 6 疑問がでた食品は、そのままにせず相談する。(食品衛生毎週月曜日、県内各保健所)

一里塚



先月下旬、町老連の三重伊勢滋賀びわ湖方面への会員旅行に同行する機会を得た。

そもそもこの旅行は当初9月の予定が台風接近で11月に延期になり、既に紅葉は散って見られないかと思っていた。それが石山寺に参拝するため立寄ったら、参道の両側にずらり並んでおりわが眼を疑った。もう少しすれば12月になろうというのにも見事であろうとは。これには自分ばかりでなく参加した会員も同じ気持ちであったと思う。わが富士川周辺では10月下

旬から11月上旬が見頃からすれば気候の違いを感じ、しばしその場を離れられなかった。自分は写真を撮り趣味にしている。今回はカメラを持っていかなくったが、機会があれば撮ってみたい場所のひとつである。

また、町老連会員旅行はいつものことながら、参加者は大体同じメンバーで普段顔を合わせなくてもバスの中で話が進み、宴会で和気藹藹と飲んで歌ってお互いの交流の場になっている光景を見てると毎日の仕事を忘れさせる楽しさを感じます。最近、老人が旅行する回数も増えていますが、これからのこの旅行を計画し、実施する場合、少しでも参加者を増やすには一概に言えないが、時期行先、目的

町への寄付金

(敬称略)

十万円 社会福祉事業費へ
由比町町屋原 豊島 一徳

善意銀行へ寄託
S 58・11・12〜12・12
竹ぼうき20本 北松野とまとう会
三万円 松下 茂作(宮町)

編集後記

12月は忘年会のシーズン。暴饮暴食には、十分の注意を!

富士川短歌会

11月詠草(天野寛選)

本通四 高橋 勝治
文化祭展示作品見事なり我も続かむ勉強をして

四十九町 入月 弘子
迷い咲くサツキ一つが晩秋の雨に散りたり色紅きまま

相生町 藤沼 満

眼をみはる山の紅葉影うつす
広瀬湖をゆく小舟一隻

南町一 上野みつ子

一枚の石を刻みて屋根とする
大き神廟は家康祀る

本通三 桐谷 静子

しわ深き夫共どもに添いたり
きより受けたる金婚の盃

舟山町 望月 八代

刈草をかぶりて咲ける思い草
歌碑立つ沼の辺夕暮れにつつ

坂 下 川口 久代

宿の窓まだ明けやらぬ山々の
あかき一ところ日のほるらし

本通一 望月 録

紅葉こき西沢谷雨にして橋
にきくなり染なすみづを

宮町 池田 てい

食むことを禁じられたる吾が
夫に一匙の果汁飲ましめにけり

宮町 浦田 次子

夫逝きて十年を経しこの秋に
吾は二人の祖母となるなり